昭和二十五年（1950）定價一部賣一圓十五月ヶ一　磐城毎日新聞　六月二十五日（日曜日）第30号（日刊）

磐城毎日

福島縣平市南町六六（平局區内）
發行所　株式會社磐城毎日新聞社
編集兼印刷人　倫孝藤遠
發行人
電話（平）一二一〇番

寫眞版
調製迅速
大和田印刷所製版部
平市仲町　電七二九番

改正税法 握り潰しに
町村の臺所は四苦八苦

地方税改正法案は參議院に於て審議未了となり不成立となつた結果各道府縣を始め各市町村の自治機關では既に本年度第一、四半期の終りになつた現在に於ても住民税は勿論一切の地方税の課税不能に陷り當地方に於ても縣出先機關のみならず各自治機關の台所は財政的に行詰りその遣り繰りに四苦八苦の狀態で政府當局に於ては應急措置として平衡交付金の前渡し等の便法を講じているがこれも燒石に水の狀態で自治機關の運營に暗影を投じている、平市では三月の昨年度最終市議會に於て二十五年度の歳出歳入豫算として九千五百四十餘万円を承認したがこの豫算は地方税法案は國會を通過するものとの見通しがあり六月の定例市議會迄には補正豫算案を提案し得るものと豫想されていたが前記の如き實情に加へ舊飯野し神谷の合併に伴ひ歳出の面が一層大きくなり毎月人件費、教育費、事務費其他で約五百万円を要する大世帯で相當台所は苦しい事は事實である、昨年度未納税の整理と現在迄市議會の承認を得て一時借り入れ金として七十七銀行より五月二十七日に二百万円、同月三十日に四百万円、六月十四日に二百万圓、計八百万円を借り受け更らに仙台財務部に申請して大藏省預金部から六月二日に短期債として二百万円を借入れ現在迄しのいで來た、此の程政府から平衡交付金の前渡金として二百万円交付される事となつたので根本收入役が受領の爲め目下仙台財務部に出張中で平市の如き大世帯では何んとか切り拔ける方法もあるが貧弱な財政の地方町村では役場職員の給料支拂いにすら事欠く實情である。

印紙税違反
何と二千五百件

平税務署間税課では去十九日より五日間平市に於いて印税法集合檢査を行つた結果平一、〇七一件小名濱六〇一件、江名一七三件、四倉二五一件、勿來一二三件、湯本一一九、植田二〇六件、湯本一一九件計二五四件で一件より壹千円づゝの罰金を取つても二百五拾四万四千圓也の金額になる

社會教育大會を
各地に兒童善指のため

教委石城出張所では二十七、八、九日七月三日の四日間所長、專門職員、行政課長主事が出席し管内各市町村長、學藝係、學校長、主任を集め、就學事務連絡協議會、社會教育大會を開催し世帯で相當台所は苦しい事ついて△經濟的事由で就學困難の兒童生徒について△就學猶豫免除兒童生徒について△就學義務を履行しないもの△長期缺席兒童について△兒童生ズル休みについて△兒童生徒の身賣について△出席對策委員會について△兒童委員(民生委員)との連絡について△學校兒童福祉について外數項を協議する、日時場所參集校は次の通り△二十七日常磐中學（湯本）湯本、内郷、磐崎、小名濱、江名濱、渡邊、上遠野、入遠野の各小校△二十八日植田小學校、植田、錦、勿來、川部、田人、山田、泉の各小校△二十九日石城地方事務所、平、四倉、大野、大浦、草野、夏井、高久、豊間、鹿島、小川、赤井川前、好間△七月三日澤渡小學校、澤渡、三阪、永戸、箕輪

認定講習會
昨日閉講式

六月四日から平一小講堂で開始した第一次小、中校教諭二級仮免認定講習會は二十日間の教程を終え、五單位を履修して二十四日閉校式を擧げた第二次講習會は七月下旬から八月下旬にかけて行ふ豫定で五單位、第三次は二學期中第四次は三學期中行い夫々四單位計二十八單位を來學期まで履修することになつてゐる

四ッ倉町役場
工事進渉中

四ッ倉町役場は延坪百四十八坪總工費二百五十万で同町仲町に磐城工業合資會社の手により和洋折ちゆうのモダンなものを去る五月來建築中だがほゞ八分通りまで出來て居り來月中には完成される

社說
水を大切に

秋から春にかけては火防上にも用水の他に貯水の必要がある、農村では田植のためにも水は大切なものだ、夏季に入つては水浴や洗濯にも水の使用量は增加するであらうし吾々の生活と切り離すことの出來ないことは今更多言を要するまでもないこの大事な水が平市には甚だ不足してゐるために市理事者に非難の矢は向けられて、亦市當局も幾多の施策と補修工事を以つて市民への使用量を充すべく對處してゐることは發表されてゐるし、大正十年給水開始當時の人口四万を目標とした設計施設でありその後逐年人口は增加し各種工場、會社、官衙の誘致は往時と樣相が變つてゐるので益々水の不足が叫ばれて來る狀態から、市會の決議により水源地擴張に着手することになつた、これが完成する時吾々市民も飢渴から救われるであらう。

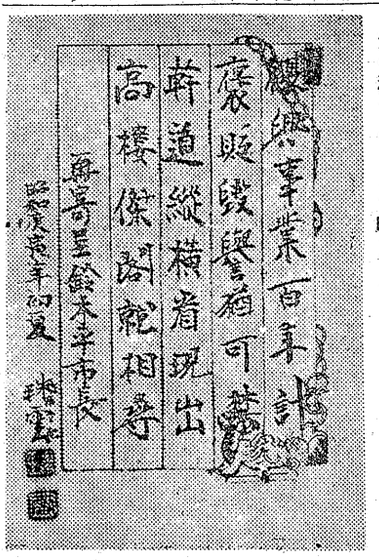
それだからと云つて工事の完成まで水に不自由し水と離れて生活をすると云うのではない、足りぬものを補うには節約と有効な使用に市民の留意が必要な譯である、使用すべきものは惜しまず使用し無駄のない利用の爲めに各自の家庭が協力するならば、それだけ一朝有事の際にも振り向けられるのである、如何に水壓の高い水道が出來ても濫費は許すべきでない節水の觀念は吾々市民の永久の心がけでなくてはなるまいと思うものである。

水、紙、電氣の使用量の多い國程文化の進んだ國であると云はれ、水と紙の消費の少ない國程非衛生的であり電力使用の足らぬところに産業も文化も遲れてゐる證左であるからだ、それだからと云つて濫費は文化の標準にはならないもので、利用と方法による節約から來る消費によつてこそ文化があり生活の合理化が計られるのである、如何に水壓の高い水道が出來ても常生活に事缺くやうなこともないのではあるまいか。

工場誘致平に依頼した
小野小名浜町議の詩

平市長に小名濱町議小野務氏より左の書狀と漢詩を寄せたのを原文其の儘と寫眞とを掲ぐ

拜啓其の後は御無沙汰致して居りました本町工場誘致運動(ビニロン)には御後援に預り三万町民は慈父の如くお慕い申居ります何とか目的貫徹致したきものと全町一致の努力をつづけて居ります、然し原町に勝たれてはと此の一事はどうしても不安の種であります昨日も委員會を開き協議しましたが良案もなく矢張り市長殿の應援に依るの外なしと決定近く御伺申上ぐる事と相成りました何卒平市同樣の御思召を以つて御援助の程を特に私より御願申上げます、御市の一致協力しての復興には驚くばかりで加えて二ケ村合併の御手腕誠に痛快を禁じゐません此處に羨ましさの餘り拙吟ながら贈呈致します。



シヤム米百頓
本月末から配給

二十三日第一次シヤム米八〇〇噸が市食糧營團に入荷し第二次として二〇〇噸計百噸のシヤム米が平市内の家庭に六月末分として四六噸七月上旬五四噸が配給される

小川郷―四ッ倉
修理廿万寄附

四ッ倉―小川郷に通ずる路線の改良工事は總費五十六万四千円を計上平土木監督所で計畫中だが此の程同路線に直接關係してゐる大野村から大竹知事あてに二十万円の寄附を申し込んで來た

官衙學校職員錄（其十七）

平商工會議所議員
野崎滿藏　阿部啓右工門　赤津庄兵衛　關内正一　諸橋久太郎　山崎與三郎　强口唯七郎　蓮沼龍輔　志賀要平　坂本菊治　古河傳一　佐藤直之助　吉田勝彦　大越新　柏原秀藏　關内榮助　森求太郎　渡邊重三郎

常務理事
駒木根忠敬　佐藤三平　正木昌次郎　服部梅雄　莊野精二郎　馬目武之助　鈴木條三　猪狩庄平　清宮一郎　中澤孝三　柴田德二　佐藤源吉　伊藤秀吉　野崎滿藏　阿部政右衛門　諸橋久太郎　清宮一郎　强口唯七郎

監事
佐藤源吉　正木昌次郎　佐藤直之助　森永太郎　吉田勝彦　柴田德二　鈴木條三郎

平第二小學校

職名	氏名
擔任學級	菅渡國尚
學校長	山名孝三
教務主任	高木勝男
庶務主任	八卷陽太郎
	鈴木チイ
	眞石富雄
	增尾幸子
	武子キミ
	加澤貞衛
	酒井壽美子
	作山清子
	鈴木美代子
	使丁 羽賀光子
	給食主任 今官昇子
	鈴木光子
	半谷猛
	中村善吉
	石川政子
	中野春樹
	力丸美知子
	横須賀俊一
	吉田好子
	木村昭雄
	大塚千枝子
	田中輝郎
	佐藤文子
	鈴木武男
	渡邊キヨ子
	明智初與
	給食婦 伊藤絹子
	鵜沼則子
	衛生看護主任 淺野トシエ
	齒科醫 内木宗八
	齒科術 猪狩一郎
	高本仲治
	井いわ

人生旅記 (19)
治療を爲すを樂しむ
齒科醫 鈴木與一郎氏

昔は醫は仁術と云つたが最近の醫者中には金錢を得るのを面白く妙な作用までして醫術の使命の境界を起越して居る者が多い世の中に齒科醫鈴木與一郎氏の如きは全く利を圖らざるの境地に在るとは尊敬に値するものと云ふべきであらう。

決して僞善家では無く境遇の同情すべき者に對しては高士が一個の利を忘れて顧みざるの概があつて當世には珍とすべきである斯く書くことによつて前置は大分長くなつたが氏は現在平市南町に居を構えて家屋敷は全部自分のもの然し決して堂々と表玄關を飾るではなしの質實性を表してゐる。

神谷出身で東京齒料醫專を卒業後は横濱で醫療に從事し腕も出來て故山に歸つて開業したのであると舍弟の新平氏は今度の平合併に村議として活躍した熱血漢である、此の弟にして兄の與一郎氏も又熱あり血の多い男性的の長所もあつて世話づきでもありよく人の面倒を見るなど慾得を離れてゐる處など長袖流のお醫者さんとしては形破りの觀もある患者の往來は繁く家庭は円滿、道樂と云えば根岸の競馬で儲けたこともあつたとか、然し今度は競輪に方向を轉じては如何でございと笑つてペンを置く。

前のあなたは 今後のあなたは

最近各學校の生徒會と稱する學生自治機關がある、先般は磐高女の自治會代表(生徒)が栃木縣方面の視察に行つた▲今度は平高工の生徒六名(自治會幹部)と教諭一名が仙台から福島へ視察旅行をしてゐる▲それで生徒會が評議會にもかけず一部の者が出張することは不合理であると騷てゐる▲

よらず行き過ぎがあつてはならない殊に分を知ることで視察や、研究も分を超えるから兎や角の問題が起る

研究は行はぬよりはよいにしてもその効果がどれだけあるかは檢討を要すべきであると云はれてゐる。

平市南町七五番地
鈴木齒科醫院
鈴木吾郎

增築記念大賣出し
百圓以上一割引
良い品 大安賣
靴と運動具
平驛三十米通り
大塚
電話七七番

皆様の魚店
丸市屋
平市四丁目
電話二一三番

第七回
◇七十七銀行の◇
七福定期預金
辨天賞十万圓 外多數
一口千円 半年 無税
七月末〆切

▲皆様のデパート▼
藤越百貨店
平市銀座通 電話二六五・二八〇・二八二

團體單獨で誘致

平市、小名浜運動に參加

二十七年度に於ける第七回國民体育大會を東北地方に誘致すべく宮城、山形兩縣に於ても豫てより運動中で本縣に於てはあくまで單獨誘致を目標として縣當局始めスポーツ關係者總力を擧げて猛運動を展開中で本縣五面を單獨開催が有望視され其の場合當平市に於ては軟式庭球、重量擧、バドミントンの三種目の競技を開催する事を豫想されているが大日本体育協會理事長清瀬三郎、同常任理事厚生省体力局長醫博東俊郎、同常任理事奥川辰雄の三氏一行は來る七月一日來平、体育大會開催について平市に於ける軟式庭球、重量擧、バドミントン各競技場の施設を視察する事となつた、尚小名濱体育協會ではこの機會に國体のヨット海洋レースを小名濱港に開催すべく猛運動を起す事となり一行の小名濱港視察を希望して居りすでに小名濱造船所ではヨット二そうの製作を終り一行の視察の際に海洋レースを行ふ事となり準備を進めている由であるが恐らく不成功に終るものと見ている、然し當市に誘致する事をかく定づけるのは地元民の今後の熱意に依るものと思ふので市民各位の御協力を熱望する次第である。

尚平市に於ては國体開催の目てき貫徹出來るかどうか。

學校飲料水

保健所で檢査

平保健所では益々增加の傾向にある赤痢豫防對策の一環として、多數の兒童を預る學校の飲料水檢査と細菌檢査を二十六日から七月二十八日まで行ふ事になつた尚給食實施校では調理、內外衛生施設環境に特別注意を拂ふ樣併せて二十三日管內各學校に通達した。

メイ虫の蔓延で

米二萬石減收豫想

溫暖な天候と防除對策の不備から石城郡下の二化螟虫の被害は相當蔓延し、管內稻田八千五百町歩のうち田人村の一部、澤渡、三阪、川前、箕輪の山間部を除いた外は殆んど二化螟虫の蛾燈を設置した平、高久、錦、勿來、小名濱が被害を僅少に喰止めてはいるが、發生面積は六千五百町歩におよびその三十%は全滅の危機に頻して居り昨年度の虫害減收一万石に比べて今年度は二倍の約二万石の減收が豫想されてゐる、この樣に二化螟虫が物凄く繁殖した原因として四、五月の第一化期に於ける硫酸ニコチンDDT乳劑BHCなど強烈な殺虫の藥劑の撒布の不足と誘蛾燈の設置の不足が擧げられて居るが、今後の對策としては七月下旬から八月上旬にかけて二化螟虫の幼虫が蛾にかえる第二化期を狙ってDDT乳劑BHCなどの强力殺虫劑を撒布すれば相當の効果をあげる事が出來るが、現在では撒布しても全然効果がない石城地方事務所では最大の武器である誘蛾燈を現在の五百燈を來年は千五百燈に增設する豫定である

吉田市議快方

平市會議員吉田喜代治氏は第二回の手術の爲め千葉醫大中山外科第七號室に治療中であるが食道胃の接合化膿部も順調に快方に向え一週間二キロの增加を見、心身共に平常に復しつゝある不足と誘蛾燈の設置の不足のので來月上旬退院の見込である

平驛構內事故送檢

平市署では十四日の平驛構內列車脫線顚覆事件の容疑者として、同驛東部信号所レバー係渡邊功(三六)ボインド係後藤忠司(三三)指令係渡邊芳松(三七)の三名を業務上過失往來妨害罪容疑で書類送檢

磐城寫友會員松永好正氏作品「ボートレート」

遊興稅旅館は澁々

料理店休業すると强硬

縣下の遊興飲食稅追加更正一千万円返上問題に就て石城郡下の割當額は總額貳百五十万円、內旅館二十一万円料理店九十七万円飲食店三十万円と更に郡部の百万円になつてゐるがこれに對し旅館業者は反對運動に參加せず、縣財政を助けるため止むを得ないから更正額を受諾する、然し斯うした思惑課稅を度々行うことに於ては、斷じて應じることは出來ないとの方針である料理店飲食店業者は縣當局の適正を欠く更正には反對であり撤回せぬなら全店休業も止むを得ないと强硬な態度に出てゐる、これに對し石城地方事務所織內特別徵收主任は

更正決定は脫稅ありと見て居り亦業者も負うべき義務をはたさない所から導を行ふ事になり各學校の罰金に相當する追徵金協力を望んでゐる

であり管內でも旅館業者參加資格は三年生以上の兒童で一校四十名から五十名全般的に進んでゐる料飲食業者も平市、小名濱町を除く他の町村は縣の方針に應じてゐる、市內業者が一齊に休業すると云はれてゐるが勝手な話で客の支拂つた稅金までも儲けるとは考えられぬことだ。

學童を海と山へ

夏休み指導計画なる

縣教委事務局では七月二十一日から八月十九日までの登校日を除く一ケ月間、夏季休かを利用して海濱に山岳に四泊、五日の旅程で學校兒童(主としてきよ弱兒)の健康增進をねらいとし、併せて健康生活の實せん指導を行ふ事になり各學校の同郡小高町大井、生谷獻淸氏山岳部やま郡猪苗代町積慶寮位まで主任敎師一名養護敎師一名指導敎師四名がついて監督實際の指導を行ふ事になつている、場所及び指定宿舍は次の通り

海濱部大浦村仁井田、景勝院、相馬郡新地村谷地小屋新地高、同村釣師、朝日館

波立藥師の寶物公開

海の催し決る（四ツ倉）

四ツ倉町觀光協會では夏期の記念日、二十五日小年町の訪れと共に水客誘致に万全を期してゐるが此の程町の行事が左の通り決まつた

七月十日海開き、二十日海日煙火競技大會、十三日寶丑の日、波立藥師大祭、八日石丑の日、波立藥師大祭、八三井造公日立三高壓吾日產化吾東北バ二三日活二三

配給酒のはんらんに

敗けた業者密造酒も賣る

最近酒屋の酒の賣行がバッタリ止まり酒稅の引下げ運動と相俟って死活問題にまで發展する傾向をおびてきたが、その原因としては密造酒の激增と共に炭礦從業員特配用清酒が金詰りと自由販賣清酒の値段の高いのにつけこんで炭礦の購賣會から一升三百十圓位で市內に年平均八百十石位が横流しされて居る事が擧げられ酒屋の中には之に對抗して逆に密造酒を買入れ安く賣始めるものも出てくるなどてんわやんわの有樣であるが平稅務署では密造酒を摘發するばかりでなく石城地方特異性ともいふべき炭礦勞務者配給酒の横流しを嚴重取締り發見した場合には加算稅を加えて自由賣酒と同一の値段まで引上げるという强硬な態度で望むことになつた

探し、十四日潮于狩り、十九日波立藥師如來の寶物公開、二十日七夕まつり、殊に四ツ倉には今まで夏の觀光客に對する名物おみやげがなかつたが、今年は廣く一般から四ツ倉名產おみやげを公募して外來客に鄕土名物の宣傳販賣につとめることになつた

青年、自殺

下川村小川農業白石示四男鐵道員久榮(三)は二十三日午後十時頃自宅隱居で首を吊つて自殺した。原因は神經衰弱から世をはかなんだため。

生命保險社員惡事

平市署では二十三日平市四町目三三光生命保險外交員佐川傳之助(五三)を詐欺の疑いで逮捕した、佐川は昨年二月頃江名町江名字北町七雜貨商坂本平四郎(五〇)さんが保險に就いて無知なことにつけこんで證券額面一万円の保險掛金は少額につき三ケ月一時拂にすると承諾させ千五十九円を詐取したもの。

果實中毒死

四倉芳子ちやん

さん三女芳子(一〇)ちやんは昨二十四日午前二時頃急死したが疫痢と判明

訂正

前号共濟會結成の氣運中の記事中組合費の差引は給料の一部即ち八百円の者より八円の割と誤りに付き訂正す。

株式市況

（磐城證券）

—二十四日現在—

鋼、鉛等海外市況の强調を反映し鑛山株が高く續いて紡績不動產株に積極てきな買氣が見られ久し振りに活氣のある取引で概算一一〇万株

鋼管	三七	呉羽化	三〇
東洋紡	一六五	苫小牧	一三一
紡	一三	十條紙	一三八
鐘紡	二六〇	本州紙	一六四
日清紡	二六〇	日セメ	三八
呉羽紡	八九	磐城セ	一六七
日東紡	一三	小野田	一〇〇
片倉	四五	不動新	三三八
帝人	一〇七	陽和不	二三
東洋レ	九一	開東不	三三五
新光レ	一四五	三越	四一五
山バル	一六八	日麥酒	四五〇
東海上	三六〇	朝麥酒	四四五
新郵船	一〇七	キリン	三〇七
三井船	九	寶酒造	一四六
日發	三五	野田醬	三七〇
三井山	四三	豐年油	一三六
日石	六三	日立	三三
三井造	八〇	日產化	吾四
高壓	吾〇	日活	二三〇
東北バ	二三		

眞の幸福とは

磐女二年　半谷順子

力强い生命が地上にもえいでた原初の時から人智では推測し難い才月を經、千差万別の世を歩み、やがて地球が冷きやくしきつてしまうであろうその時までも、そして尙その後に於いても、唯一つ變らぬ眞なるもの、それこそ幸福を求めてやまぬ人類の心である。何故幸福はかくも偉大であり、全世界に絶對的支配力をもつて君臨するのか。それは眞の幸福が最大の喜びだからであるでは眞の幸福とは何であろうか。

眞の幸福は、內的條件と外的條件とが融合一致して初めて成立する。內的な幸福は自已的な精神的なもので、自已の心のあり方所謂氣の持ちようで或程度つくり上げることができる。そして他をも幸福に誘うものが眞の幸福である。精神的に幸である人はどんな人か。それは希望をもてる人である。希望は良心的野心である。希望をもつ人の生活ほど生きがいのあるものはない。又それは自已を信愛し、他を信愛し得る人である。そして個々がそうあるためには、各々自已に忠實、他人に正直でなければならぬ。裏切られても尙幸と思はねばならぬ。それ程純な信愛をもてる心を。信愛し合う人々、そこには友情が在る友情は强き精神の結合で、異休同心といわれるものである。友情にもえる人の心はこの上もなく美しく、淸い香を放つ。そして言い難い幸福感に包まれるもので、又すべてに滿足し、氣の持ちようで或程度つくり上げることができる。そして自分が幸福に滿たされていおのづから外に表われる人は、自然他に對して寬大であり親切でありすべての言動が眞實味にあふれている。唯一の自已の物質の幸福は健康である。健全なる精神は健康より生きる、外的幸福はすべての社會的條件に基く具体的なものである。溫き家庭、神聖な樂しき學園。誠實味富かな社會……に生活できることは最大の外的幸福と言える、しかし眞の幸福は精神生活のみにあるのでなく物的生活の財物が必要である。逆增は人を磨く砥石であることも確かだ。そして人は言うに貧しくも心の富める者は幸なりと。私にもこの概念はある。しかし眞に物的生活の窮迫に直面した時、心から滿足し。幸と感じ得るのであろうか。人は一定の財物が必要となる、だが度をすぎて物の慮となる事は非常なる不幸である。そしてそれは精神的に不幸に見舞われた人と同程度まで不幸である內的幸福と外的幸福は適切に融合をみた時始めて眞の幸福となる。

全と個とは互に密接な關係をもつている。幸福に於ては常に現在のこう福について考えるべきである。個人の幸福が生まれ、同時に個人の幸福の蓄積が全体的こう福であるのだ。政治經濟、學問、文學、藝術、すべての營みは全或は個のさちをめざしている。問題はこれにたずさわる人、又ごれを受ける人、個人のこう福觀である。そうですねこれらにたずさわる人が眞にこう福でなければ他人を眞にこう福にすることはできない。眞にこう福を理解するのは身を以て体驗した人であるから。又こう福を感謝する時人は幸福であるそこに宗教の存在がある。しないでしまう人が多いがこれらの人は、滿足し、感謝することかない点不こうである。

あなたは今こう福ですか？と尋ねられたとする。大抵の人は確答できないであらう。〃こう福でもない〃位がせめてもの回答である人は常に現在のこう福について考えるべきである。こう福はしば々空論であり、用意された食卓であることが多い。眞は織るのみに非ず行うにあり。その時その時の生活をこう福に過すことに最大の努力を拂うことを忘れてはならない。未來のこう福のためになど云う空論のために現在を空しく失つてはならぬ。

▽○△　▽○△

◇夏の御散歩◇
せひ御利用下さい
夜間營業……八時迄
百貨豊富
平驛前
壽百貨店
電話六五六番

藝妓屋
市乃家
平市新田町
電話一五二番

胃腸
平市南町
電一〇七
松村醫院
內科
胃腸科
呼吸器科
放射線科
松村鐵郎

外科
外科一般
整形外科
性病科
皮膚科
肛門科
松村亨

御家庭にも
學校にも
貴女のすばらしいスタイルを
つくる　ノーブルミシン
レーコーミシン
有名會社特約店
月賦販賣に應じます
小松ミシン商會
內鄕町宮金坂通り